

2024 年 3 月期 第 3 四半期 アナリスト様向け Zoom ウェビナーカンファレンス 主な質疑応答記録

日時：2024 年 1 月 31 日（水） 16:50 ～ 18:00

出席者：代表取締役社長 豊嶋 哲也

取締役常務執行役員 基盤事業本部長 松浦 一慶

取締役常務執行役員 管理事業本部長 曽根 芳之

取締役常務執行役員 高機能事業本部長 小西 裕一郎

【全体】

ご質問：ROIC の考え方について、化成品や光学フィルムを中心に説明してほしい。

回答：化成品については、2025 年から先を見ると競争環境の変化も予想され、構造的な事業環境の変化があると認識している。事業ポートフォリオの改革が必要であり、例えば販売や研究活動をミニマイズし、コストを下げていくようなことが必要になると考えている。光学フィルムは、昨年度に大型投資をしたが、重要なことは投資によってきちんと工場がフル稼働し、売上を上げているかどうかであり、高い稼働率を維持しながら償却が進んでいけば、必然的に ROIC は上がってくると考えている。

ご質問：中期経営計画において、2030 年度に向け 3,500 億の投資をしていく方針が開示されている。今後大きな投資の際には、短中期的に ROIC が落ち込む時期が想定されるが、予実管理に対する考え方を説明してほしい。

回答：事業計画が投資時に期待していたものになっているか、設定した KPI に照らし合わせ見ていくが必要になると考える。投下資本に関して、きちんと利益が出るような体制ができているのか、中に入って数字を取っていくことが大事であると考えている。例えば、コーポレートベンチャーキャピタルについては、PMI がきちんと管理できるかがポイントになるだろう。

ご質問：2030 年までの間に GPB、GPI も含めた大きな投資を想定しておく必要はあるか。

回答：現時点では GPB、GPI 全体に手を入れる考えはない。GPI の下流にある COP を伸ばすための最適化として、DCPD のプロセスに手を入れる可能性はある。

ご質問：業績予想修正のうち、高機能材料事業の下方修正について、一過性要因と通常の事業要因、中期的な成長について説明してほしい。

回答：セグメント毎にプラスもマイナスもある。高機能材料事業の下方修正のうち、能登半島地震の影響が約半分であり、光学フィルムが影響を受けている。電池材料は春節前の出荷増により 3Q に一部 4Q の前倒しも含んでいるため、その反動が 4Q に来ること、加えて 2 月から 3 月にかけてセルの在庫が過多になることによる生産調整の影響を 4Q の見通しに含めている。欧州についても今のところ力強さが無い状況である。投資については、当社プロジェクトは遅滞なく進めている。電池材料については、米国で NMC、LFP いずれにも対応できるような形で、現在計画をブラッシュアップしているところである。

【エラストマー】

ご質問：2Q から 3Q にかけて、エラストマー素材事業の増益は合成ゴムが貢献しているようだが、その要因について説明してほしい。また 3Q から 4Q にかけて減益する要因についても説明してほしい。

回答：原料価格の変動により、販売価格とのスプレッドが拡大したタイミングであったことの影響が大きい。加えて、シンガポール拠点の稼働が上がったこと、米国の特殊ゴムが好調であったことが要因である。4Q の減益は旧正月の影響といった季節要因および年度末における本社費増を考慮したものであるが、総じて特殊ゴムの需要は堅調である。

ご質問：エラストマーの構造改革に関する時間軸はどのように考えているか？

回答：事業構造改革に関しては、現在活発な議論をしている。機関決定が必要なものは実行し、可及的速やかに全体像が見えるような形でお示していきたいと考えている。

ご質問：PFAS規制によるHNBRの動向について説明してほしい。

回答：民生用途で欧州を中心に評価が進んでいる。自動車向けは動向を見ながらになるが、長い目で見れば、HNBRがPFAS規制による代替の候補になり得ると期待している。

以上